

# 施策評価シート

幹事部局

環境生活部

<b>施策の名称</b>	VI-2-(2) 文化芸術の振興
<b>施策の目的</b>	広く県民が文化・芸術を鑑賞し、参加し、創造しながら、生き生きと心豊かに暮らせる地域をつくれます。
<b>施策の現状 に対する評価</b>	<p>①(創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度の県民文化祭は、3年ぶりにコロナ禍前とほぼ同様の形態で事業が実施でき、参加者数は昨年度実績を上回ったものの目標には届かなかった。参加者の固定化の傾向が継続しているため、若年層を含めた新たな参加者のより一層の掘り起こしが課題である。</li> <li>・青少年の文化活動の推進については、青少年芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰の対象となる大会や成績・賞位の見直しを行ったものの、被表彰件数は増減を繰り返しながら推移しており、推薦件数を増やすことが課題である。</li> </ul> <p>②(県立文化施設の活用と機能の充実、文化施設の機能強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立文化施設の入館者数は、県立美術館、芸術文化センターにおいて目標を上回った。</li> <li>・県立美術館では、子どもとその家族に向けたサービスの拡大や、新たに北斎展示室の整備を行い、石見美術館では、ファッションやデザインなど特色ある展覧会を開催するなど、鑑賞機会の充実を図った。</li> <li>・いわみ芸術劇場は、耐震改修工事のためホールは通年で休館したが、県西部全域でアウトリーチ事業を積極的に展開し、地域の文化活動を継続した。</li> <li>・県民会館では、館内で実施するコンサートや演劇等の鑑賞事業をはじめ、館外においても県内ホールや関係団体と連携した地域ステージ、学校への芸術家派遣事業を実施し、コロナ禍においても文化芸術の鑑賞、育成、創造の機会が失われないように取り組んだ。</li> <li>・いずれの文化施設も老朽化等による設備、備品の更新、修繕の規模が大きくなってきていることから、計画的に更新、修繕を行うことが課題である。</li> </ul> <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なコレクション展を開催するためには、一定の美術品購入ができる環境を整えておく必要があることから、美術品取得基金物品について一般会計予算による買い戻しを行った。</li> </ul>
<b>今後の取組 の方向性</b>	<p>①(創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民文化祭への参加については、県展や文芸フェスタなど各事業のPRの工夫に取り組み、より多くの県民が参加できるよう、各文化芸術団体等と協力しながら進めていく。</li> <li>・青少年の文化活動推進については、引き続き表彰及び顕彰の推薦に該当する大会や成績・賞位の基準を点検するとともに、学校・地域・文化芸術団体等と連携して、児童・生徒が多様な文化芸術に触れる機会等を充実させ、文化活動への意欲・関心を高めていく。</li> </ul> <p>②(県立文化施設の活用と機能の充実、文化施設の機能強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立美術館では、保有する貴重な北斎コレクションを大切に守り伝え、多くの方に作品との出会いの場を提供する「北斎プロジェクト」を推進していく。また、親子に向けたサービスの拡充を継続するとともにPRを充実させ利用促進を図る。</li> <li>・石見美術館では、ファッション等、特色あるコレクションを活用した企画、複合施設の特徴を活かしたイベントの開催や情報発信の工夫などを行い、観覧者数の増加を図る。</li> <li>・県民会館、いわみ芸術劇場は、芸術文化の拠点施設として、館内でのホールイベントやワークショップの充実を図るとともに、館外でのアウトリーチ活動を積極的に展開し、県民の文化芸術事業への参加を促進していく。</li> <li>・文化施設の設備、備品の老朽化等の状況を把握し、長期的な修繕等の計画を作成の上、計画的に修繕等を行っていく。</li> </ul>



事務事業の一覧

施策の名称	VI-2-(2) 文化芸術の振興
-------	------------------

	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	創造的な文化活動推進事業	文化活動を行う県民	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する	10,150	12,407	文化国際課
2	文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業	文化芸術活動を行う県民	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。	133	171	文化国際課
3	芸術・文化の情報発信・収集事業	市町村、文化団体、文化施設、県民等	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る	12,835	8,110	文化国際課
4	県立美術館事業	県民および来館者	所蔵するコレクション及び美術館自体が県民の誇りとなり、地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する	548,310	448,378	文化国際課
5	芸術文化センター事業	県民及び来館者	文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる	574,317	474,706	文化国際課
6	島根県民会館事業	県民及び文化芸術団体など	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる	414,159	265,026	文化国際課
7	青少年文化活動推進事業	児童・生徒	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。	8,421	8,789	社会教育課
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		創造的な文化活動推進事業				
目的	誰(何)を対象として	文化活動を行う県民	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する		10,150	12,407	
			うち一般財源 (千円)	10,150	10,407	
令和5年度の取組内容		県民文化祭の開催や次世代育成支援等、県民が企画段階から参加し創り上げる島根の芸術文化の事業を行う。				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直した点		・県民文化祭の総合美術展において、出品しやすい体制とするため新たに県西部での受付会場を設けた ・次世代育成支援事業において、派遣分野に新たなジャンルを追加した				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策		
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	県民文化祭参加者数【当該年度4月～3月】	目標値		34,000.0	34,000.0	34,000.0	34,000.0	34,000.0	人	単年度 値
		実績値	32,620.0	17,840.0	24,782.0	25,777.0				
		達成率	—	52.5	72.9	75.9	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		【各県民文化祭主催事業参加者数(単位:人)】 ①文化芸術次世代育成支援事業 4,407 ②県総合美術展(県展)開催 8,008 ③特別参加展(硬筆アート展)開催 1,150 ④文芸作品募集及び「島根文芸」発行 836 ⑤しまね文芸フェスタ開催 178								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	「島根県文化芸術振興条例」の制定を踏まえて、文化芸術の裾野の拡大、次世代育成に主眼をおき、県民文化祭への若者の参加拡大や文化芸術の担い手の育成などの取組を推進している。平成24年度から開始した文化芸術団体が学校などに出向いて実技指導・合同公演を行う文化芸術次世代育成支援事業は、各実施団体と連携して多くの学校の参加につながっている。また、ここ数年はコロナ禍で事業の一部中止や縮小となった事業があったが、令和4年度はほぼコロナ禍前と同様の形態で事業が実施でき、参加者数も回復傾向にある。
課題分析	① 課題	・参加者や事業が固定化、高齢化し、新たな取組が少ない傾向にある ・文化芸術次世代育成支援事業について、学校からの実施希望は年々増えているが、希望メニューに偏りがあること、また国からの助成金の額により事業規模が左右され、要望に応えられない場合があるなど、ニーズに対応できない状況が生じている。
	② 原因	・県展(対象:高校生以上)への高校生の参加、文芸フェスタ・文芸作品公募への小中高生の参加が少ない ・県民文化祭の知名度が低く、参加意欲の向上につながっていない ・文化芸術次世代育成支援事業への助成を受けている国の補助事業の内容が変更され、採択されにくい状況が続いている。また、新しいジャンルの場合は、応募する学校側で事業内容のイメージがしづらい状況がある
	③ 方向性	・県民文化祭については、幅広い県民が参加できる開かれた文化祭にすることをめざし、各事業間の連携を図り、積極的なPRに努める。 ・共催事業については、市町村文化協会等への参加の働きかけを行うと共に、文化ファンドとの情報共有等を活用して新規参加団体の掘り起こしを図る。 ・次世代育成支援事業の学校向け募集パンフレット等の構成を工夫し、事業内容をイメージしやすい内容とする。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業			
目的	誰(何)を対象として	文化芸術活動を行う県民	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。		133	171
			うち一般財源 (千円)	133	171
令和5年度の取組内容	本県の文化の発展に貢献することが期待され、活動を奨励するにふさわしい者に奨励賞を贈り、これを顕彰する。				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直した点	・県内の文化団体に加えて新聞・情報誌・テレビ等メディアからも情報収集し、若手人材の活動の把握に務める。				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県文化奨励賞の表彰件数【当該年度3月時点】	目標値		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	件	単年度値
		実績値	2.0	2.0	2.0	2.0				
		達成率	—	100.0	100.0	100.0	—	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・本県文化振興への貢献が期待できる活動を行っているものを平成2年度から毎年1～2名表彰しており、令和4年度までに65個人・団体が受賞した。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・受賞について新聞等でも報道され、文化奨励賞の存在や受賞者・団体の活動を周知することができた。 ・県西部・東部の対象者を表彰できた。
課題分析	① 課題	・表彰対象者として推薦される件数が減少している。
	② 原因	・若い世代の活動等を十分に把握できていない。 ・表彰制度の周知が十分にできていない。
	③ 方向性	・新聞・テレビ・インターネットなどからも情報収集に努め、文化団体や若手人材等の活動を把握する。 ・県の広報媒体等も活用して受賞者・団体の活動を紹介するなど、賞の認知度を高める取組を進める。 ・市町村・文化団体等に引き続き積極的な推薦を働きかける。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		芸術・文化の情報発信・収集事業			
目的	誰(何)を対象として	市町村、文化団体、文化施設、県民等	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る		12,835	8,110
			うち一般財源 (千円)	0	0
令和5年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国等の芸術文化に対する助成情報等を収集し、速やかに、かつ確認しやすい形で、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供する。</li> <li>・助成を希望する事案について、市町村等から情報提供を受け、申請の可否、内容等の相談に乗る。</li> <li>・各種助成事業の活用状況(申請・採択件数等)を情報提供するなど、今後の取組の参考にしてもらい、助成事業の有効活用を努める。</li> </ul>			
令和4年度に行った評価を踏まえて見直した点		なし			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	(一財)地域創造ほか主要助成金等への県内申請件数【当該年度4月～3月】	目標値		43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	件	単年度 値
		実績値	38.0	32.0	32.0	38.0				
		達成率	—	74.5	74.5	88.4	—	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国等の助成情報等は、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供している。</li> <li>・地域創造の助成金申請は、平成22年度以降、毎年度、平均4件程度の申請がある。</li> <li>・様々な助成事業を活用し、芸術文化に関わる人材や団体の育成・支援の取組が行われている。(R4申請実績～自治総合センター:1件、エネルギー文化・スポーツ財団15件ほか)</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種助成事業に関する情報を市町村や文化団体等に周知することで、中山間地域や離島等も含めた県内各地で文化・芸術的な活動が実施され、県民が芸術文化を鑑賞し、自ら参加する機会が増加している。</li> <li>・県民が生の芸術文化に触れることで、より興味・関心を高め、自主的・創造的な活動に繋がっている。</li> </ul>
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)に支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性
		<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に国や各種団体の助成制度の情報提供をしているが、活用が一部に限定される傾向があり、広がりが見られない。</li> <li>・各種制度の活用につながる情報が文化団体等へ十分に伝わっていない。</li> <li>・文化団体等に所属せずに芸術文化活動を実施している団体等へ各種制度の情報が行き渡っていないことが考えられる。</li> <li>島根県公式ホームページの文化振興のページに掲載している各種助成制度の情報を充実させ、現在各団体へ所属していない方や文化・芸術的な活動に興味がある方(団体)へ情報が届く環境を整える。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		県立美術館事業			
目的	誰(何)を対象として	県民および来館者	事業費(千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	所蔵するコレクション及び美術館自体が県民の誇りとなり、地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する		548,310	448,378
			うち一般財源(千円)	449,928	347,762
令和5年度の取組内容	魅力ある企画展、コレクション展を開催し、観覧者数の増加に取り組む。 「家族の時間」や「キッズライブラリー」など、子どもとその家族に向けた取組やサービスを拡充させ、来館する機会を増やすことにより、島根の美術振興、文化交流の拠点となることを目指す。 「北斎プロジェクト」により、県内外へ美術館の魅力を発信する。 県外からの観光客数を増やす。				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと	「かぞくの時間」を拡充し、子どもたちが美術館及び美術鑑賞に親しめるような環境整備を行った。 新たに設置した北斎展示室では、1ヶ月毎に展示替えを行い、多くの北斎作品を見ていただけるよう取り組んだ。				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県立美術館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		250,000.0	20,000.0	250,000.0	250,000.0	250,000.0	人	単年度値
		実績値	268,616.0	103,564.0	15,655.0	328,852.0				
		達成率	—	41.5	78.3	131.6	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策として日時指定予約システムを採用するとともに、入館口の制限を行った。</li> <li>・企画展は目標133,000人に対して実績155,325人であった。(目標進捗率116.8%)</li> <li>・県外でのワークショップの実施(計9回、参加者数2,780名)</li> <li>・旅行ツアーの受入(催行数58件 参加者数1,201名)</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民向けの広報を強化し、デジタル発信力を意識したWEB広告、YouTubeでの動画配信を行った。</li> <li>・「かぞくの時間」や「キッズライブラリー」の充実により親子での来館を促し、鑑賞の動機付けを行った。</li> <li>・R4年度は東京・大阪・広島等の県外において北斎コレクションの魅力を伝えるワークショップを実施した。</li> <li>・旅行会社への働きかけを積極的に行い、県外からのツアー造成を行った。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクション展の観覧率は企画展と比較して低い状況が続いている。(観覧率 企画展47.2%、コレクション展22.3%)</li> <li>・R4年度の企画展(チームラボ展を除く)では、来館者の6割以上を50代以上が占めており、40代以下の来館者が少ない。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館からの年数経過で美術館自体の目新しさ、来館につながるきっかけが少なくなっている。</li> <li>・所蔵コレクションに対しての県民の認知度が乏しい。</li> <li>・世界有数の北斎コレクションの魅力や価値を十分にPRできていない。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども・親子に向けた取組やサービスが拡充されていることをPRすることにより親子客の利用増を図る。</li> <li>・北斎コレクションをはじめとした所蔵コレクションの価値の高さと魅力について引き続き広報を強化する。</li> <li>・観光部局と連携し、北斎コレクションを活用した集客対策、PRIに取り組む。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		芸術文化センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び来館者	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる		574,317	474,706
			うち一般財源 (千円)	318,873	216,309
令和5年度の取組内容	大・小ホールの特定天井改修等の工事が終了したため、ホール事業を再開する(R5.5月～)。劇場・美術館ともに地域住民及び観光客等の集客が図られるよう、魅力ある事業を実施する。				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホール休館中は県西部全域でアウトリーチ事業を行い、地域の文化活動を継続した。</li> <li>・企画展ごとに広報媒体や手法を選定・工夫してこれまでと異なる若い客層や県外の客層にPRした。</li> <li>・今後の設備・備品の改修・更新について指定管理者・営繕課等の関係者と協議し、情報や課題の共有を行った。</li> </ul>				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	芸術文化センター入館者数【当該年度4月～3月】※ R3～4年度は施設整備を実施	目標値		350,000.0	210,000.0	70,000.0	350,000.0	350,000.0	人	単年度 値
		実績値	368,334.0	155,515.0	195,206.0	152,485.0				
		達成率	—	44.5	93.0	217.9	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・石見美術館では企画展を3本、特別展を3本実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で集客には苦戦したが、特別展2本が全国放送のテレビ番組で紹介されるなど石見美術館の存在や取組をPRできた。</li> <li>・館内外で鑑賞・育成・創造事業を積極的に展開し、目標を大きく上回る入館者数となった。</li> <li>・地域団体や市町ホールと連携し、支援を行いながら42カ所で開催した文化公演を実施するなど、地域の文化活動を支える役割を果たした。</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は美術品を34点購入し、新たなコレクションとして収蔵することができた。また、新たなコレクションを活用した特別展を開催した。</li> <li>・設備・備品の修繕・更新について関係者と協議し、情報や課題の共有を行った。</li> <li>・美術品取得基金の買い戻しを行い、美術品購入ができる環境を整えた。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部、県外から安定的に来館者が訪れていない。</li> <li>・企画展が無い期間のコレクション展の観覧者数が少ない。</li> <li>・修繕・更新が必要な設備や備品がかなり多く、修繕規模が大きくなっている。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた予算の中で、集客が多く見込める企画展を継続的に開催することが難しい。</li> <li>・石見美術館で収蔵するコレクション数が十分ではない。</li> <li>・開館から約17年が経過し、施設・設備等の性能劣化や老朽化が進行している。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部、県外から集客を期待できる魅力的な企画展を実施し、効果的にPRするため、指定管理者と連携して観覧者の増加につながるPR方法・関連イベント等を工夫していく。また、事業の効率化や基金の効果的な活用方法についても引き続き検討していく。</li> <li>・館内の活動を本格的に再開するとともに、規模を縮小しながらもアウトリーチ事業を継続し、地域の文化芸術の拠点として存在感を發揮し、文化活動を支える。</li> <li>・来館者の安全・快適性を確保し、魅力的な公演の誘致に繋がる施設・設備管理を実施するため、管財課や営繕課、指定管理者と連携し、計画的に設備・備品の修繕や更新等を行う。</li> </ul>



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		島根県民会館事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び文化芸術団体など	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる		414,159	265,026
			うち一般財源 (千円)	259,624	108,032
令和5年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>コンサートなどの鑑賞機会の提供</li> <li>文化芸術活動を支える人材の育成</li> <li>県民参加による特色ある地域文化の創造</li> </ul>			
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと		県内各市町村ホールや県内文化団体と連携して実施する地域ステージの実施地域・公演数を増やし、新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた県民の文化芸術に触れる機会の創出を図った。 また、館内トイレの一部バリアフリー化やホール舞台幕の更新など、施設設備の整備に取り組んだ。			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県民会館大・中ホール利用者数【当該年度4月～3月】	目標値		170,000.0	102,000.0	170,000.0	170,000.0	170,000.0	人	単年度値
		実績値	135,170.0	34,542.0	84,645.0	123,954.0				
		達成率	—	20.4	83.0	73.0	—	—	%	
2	県民会館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		450,000.0	270,000.0	450,000.0	450,000.0	450,000.0	人	単年度値
		実績値	423,066.0	174,425.0	221,856.0	330,823.0				
		達成率	—	38.8	82.2	73.6	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・『しまね県民オペラ2023「ラ・ボエーム」』は、島根県出身の音楽家や地元合唱団などの出演者のほか、衣装ワークショップに参加した県民、地元企業なども含め、総勢250名という大型プロジェクトとして実施した。 ・館外事業として、県内各市町村ホールや県内文化団体と連携して地域ステージを9地域・12公演実施した。 ・文化芸術による子どもの育成事業(芸術家学校派遣)では、地元アーティストの講師を増やすなど実施方法を工夫し、県内40校で事業実施した。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・学校への芸術家派遣事業や県内ホール連携事業、舞台技術の研修・セミナーなど、関係機関と調整しながら文化芸術の鑑賞・育成・創造の機会が失われないよう積極的に取り組んだ。 ・コロナ禍で活動が継続できなかった団体などが以前と同じように運営できるよう、過年度利用情報の提供や必要な助言を行った。また、舞台作りへの相談対応や指導・助言、催し物の予算に応じた企画への助言など、利用しやすい施設としての環境づくりを実施している。
課題分析	① 課題	・館内での鑑賞事業や館外での地域ステージ等の観客数が伸び悩んでいる。 ・文化芸術活動の担い手が不足している。
	② 原因	・施設が老朽化するとともに、舞台装置等が経年により陳腐化し、良質な舞台芸術の提供が困難になっている。 ・文化芸術活動の次世代の担い手が不足し、高齢化が進んでいる。
	③ 方向性	・舞台設備(照明や吊り物等)の計画的な改修や館内のバリアフリー化を検討する。 ・客席とステージが近いことによる良さを生かした企画を検討する。 ・鑑賞機会の確保やワークショップの実施等による次世代育成を支援する。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

社会教育課

事務事業の名称		青少年文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	児童・生徒	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。		8,421	8,789
			うち一般財源 (千円)	8,421	8,789
令和5年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の文化部活動を活性化するため、島根県高等学校文化連盟(県高文連)に対し支援を行う。</li> <li>・全国大会に出場する部活動の激励や、全国規模の大会等で入賞した児童・生徒を顕彰する。</li> <li>・文化庁や文化団体の各種事業を活用し、児童・生徒に対して優れた文化芸術に親しむ機会を提供する。</li> </ul>			
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・昨年度に引き続き、幅広く大会や成績・賞位の募集を行い、表彰・顕彰対象の見直しを行う。			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	高校における生徒の文化部活動への参加率(県高文連加盟校)【当該年度4月～3月】	目標値		30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	%	単年度 値
		実績値	29.6	32.4	27.4	26.6				
		達成率	—	108.0	91.4	88.7	—	—		
2	青少年芸術文化表彰及び青少年児童生徒学芸顕彰の被表彰団体(個人)件数【当該年度4月～3月】	目標値		70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	件数	単年度 値
		実績値	95.0	37.0	55.0	49.0				
		達成率	—	52.9	78.6	70.0	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・全体の高校生生徒数が減少傾向 R2:4,976人/15,334人⇒R3:4,572人/16,672人⇒ R4:4,391人/16,481人 【県高文連加盟校における参加率】 R2:32.4%、R3:27.4% R4:26.6% ・青少年芸術文化表彰(知事表彰)・児童生徒学芸顕彰(教育長顕彰)件数 【知事表彰】 R4:第1期 2団体 第2期:1個人 【教育長顕彰】 R4:第1期 10団体 7個人 第2期:1団体 27個人 1指導者								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化が進む中において、高校生の文化活動参加率は前年度より減少している。</li> <li>・芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰の対象となる大会や成績・賞位の見直しを行ったものの、被表彰件数は、増減を繰り返しながら推移している。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の文化部活動の魅力が、県民に十分に伝わっていない。</li> <li>・表彰及び顕彰への推薦件数が少ない。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の文化部活動の発表の機会が少ない。</li> <li>・近年、文化・芸術分野における全国大会が多様化し、各学校が推薦するに当たって、該当する大会や成績・賞位の範囲が明確になっていない。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の文化部活動活性化のため、引き続き多様な方法で発表する機会を設ける。</li> <li>・より多くの児童・生徒を表彰・顕彰するため、引き続き推薦に該当する大会や成績・賞位の点検を行う。</li> </ul>